

地域の輝き・活力・底力・潜在能力を引き出し、「地方創生」を力強くリードする!

地方創生観

~東海版~

2016.2 第2号

流行発信MOOK

キーマン2氏に
直撃インタビュー

石破 茂 地方創生担当大臣
片山さつき 参議院議員

地方創生へ向け、
中央・地方とともに「躍進」を誓う!

「環境首都あいち」を確固たるものに! 三重県を知り、日本を知る!

大村秀章 愛知県知事 鈴木英敬 三重県知事

地域の
「やる気」
次第!?

愛知県特集

三重県特集

岐阜県特集

環境首都づくりが21世紀の財産

サミット・観光で知名度アップを

6次産業化が加速中

広域観光をリード!

昇龍道プロジェクト推進協議会会長

三田敏雄 中部経済連合会会長インタビュー

定番企画

「東海エリアの金字塔」

「個性輝く経営者たち」



「トレビパチ!」とひとくくりにするが、コントローラーを楽な位置にセットできるキットやお楽しみカードといったおまけの提供など改良が加えられている。



中村区の本社。

「と」、「とんモチベーション喚起」に 「こだわった製品づくりを！」

「例えば、体にいいからと、10キロのランニングを続けよう」と決心する。残念ながら、それだけではいつか辛くなつてやめてしまふものの。それでは意味がないとなるほど！「楽しむための前提条件モチベーション」にこだわる永野社長の真意が読み取れる。認知症は長期戦となるだけに、「心底楽しむ」くらいの力の入れどころがなければ、息長く回復効果を実感できるレベルまで到達できないのだ。

機器開発にあたっては、永野社長がポイントにするのは、「子どもでも喜んでもらえるか」という視点を押さえていること。ゲーム感覚・適度な遊び心をくすぐるというスタンスがなくては、介護サービス利用者の誰もが楽しみたいと思いま

けてもらえる機器は生み出せないと永野社長はみる。

「『トレビパチ!』だけで終わりではない。心の面に加えて、弱らせではなくなり足など、体を使つて楽しめる機器づくりを次のステップとし、近いうちに福祉向け展示会で参考出品として世に示したい」



昨年のウェルフェア2015での一幕。

「認知症予防・回復」の メリット創出に向け、 挑戦あるのみ！

豊丸産業
代表取締役社長
永野光容

Mitsuyoshi Nagano

当誌・第1号のインタビュー取材で、愛知県・大村知事が愛知・名古屋の誇るべきレジャー産業として具体例に挙げたパチンコ。名古屋発祥のパチンコメーカーとして知られる、豊丸産業（名古屋市中村区）の永野光容社長は「楽しみながら認知症回復！」という壮大なテーマに向かい、様々な機器開発にあたっている。



静音効果の高いコーティングを施した玉をつくったり、玉のスピードを落としたりするのは同社にとってお手の物。介護施設ばかりにとられず、子どもに真心の食事を提供する「子ども食堂」やコンビニ、パチンコホールなどを年記者とのコミュニケーションの場に育て上げてみたいと永野社長は明かす。

全国津々浦々に広がり、「夢中になれる文化」として定着を果たしたパチンコ。ギャンブル性を取り払い、「生涯エンジョイライフ」のタネとして高齢者福祉施設を中心に導入を働きかけ、開花を進めているのが、脳を刺激するトレーニング機能に的を絞るオリジナルパチンコ台「トレパチ！」だ。

「1人ひとりの趣味趣向は全く異なる。デイサービス利用者が全てが満足するレクリエーションを開拓し続けねばならないスタッフは相当辛苦、そこに貢献できる機器とりわけ「楽しむための前提条件」を用意した」と、「トレビパチ！」開発の意図を明かす永野社長。

首都圏の有名理科系大学教授とのつながりを大切にしながら、様々な業界の先進性に触れる展示会に出演して声を拾い、介護現場にも積極的に足を運ぶ永野社長だからこそ、説得力がある。現状を的確に捉えることで、しっかりとニーズに応える機器づくりにつなげる狙いがあるからに他ならない。

超高齢化社会に突入した今、着眼点が深堀りされる「認知症の予防・回復」こそ、永野社長にとっての「脳トレ開発のモチベーション」（動機付け・原点）であり、「トレビパチ！」は成果物の1つに過ぎないという。

デイサービスセンターに 行きたくなる レクリエーション機器「トレビパチ！」